



教職員の資質の向上を願って

佐渡総合教育センター

所長 小林 祐玄

学校のイベント的活動は外からも見えやすく、話題性があります。逆に、通常の授業や部活は平凡なものです。ほとんど話題にもならないし注目もされません。しかし、学校教育の本質はむしろそのような日常にあるように思います。

教育基本法、教育職員免許法が改正され、今年度は新学習指導要領が告示されました。教育にかかわる法令の矢継ぎ早な改正に教育現場はなかなか追いつかないのが実情ではないでしょうか。

文部科学省が実施し始めた全国学力テストの都道府県別結果では昨年も今年も秋田県が上位に位置しました。マスコミ等の報道によれば、秋田県の実施している学力向上策は次の3点です。

学力テストの結果の分析と授業改善
学習集団の少人数化、習熟度別指導

体験的な学びをとおして自信と誇りのもてる「ふるさと教育」

いずれも、そう奇抜なものではありません。ただ、このことに全県で継続して取り組んでいるのです。

新学習指導要領に示された思考力・判断力のある子どもを育てるためには、指導する教職員の資質の保持・向上が重要だと思っています。佐渡市総合教育センター条例では次の4点の役割が明記されています。

教育に関する調査・研究
教育関係職員の研修
教材・教具などの資料収集
教育相談

この1年間積極的に取り組んだのは、研修講座の開催です。「人は城、人は石垣」とも言います。人を育てるためには育てる側の資質が問われます。継続的に研修に励む教職員のみが教員としての資質の保持・向上が可能になるのだと思っています。

今後も、さらに工夫を重ね、有意義な研修講座を設定していきたいと考えています。

相川小学校の豊かな体験活動【特色ある取組の紹介】

指導主事 川上 治男

相川小学校は、昨年度から、文部科学省から委託され、「豊かな体験活動推進事業（児童生徒の輝く心育成事業）」に取り組んでいます。これは、子どもたちが豊かな人間性や社会性などを育むために、学校教育において様々な体験活動が重要であることから、他校のモデルとなる体験活動に取り組む事業です。「命のアサガオ」の栽培活動をとおして、命を大切にすることを育む道徳教育を推進しています。

体験活動を推進するにあたり、次の2つを重点において取り組んでいます。

全校縦割り班による異年齢集団での活動

日常生活の縦割り班を、全校での栽培活動に取り入れています。上の学年から下の学年への助言や支援によって、思いやりや感謝など、他者を尊重する心情や態度を養います。

保護者・地域の人とのかかわりによる活動
「命のアサガオ」の栽培活動で、保護者や地域の方々と一緒に活動し、かかわりを深めています。また、道徳の授業に地域の方や保護者から参加してもらったり、地域で「命のアサガオ」の栽培活動を広めてもらったりしています。

今年の5月16日に、「命について考え、命の尊さ・大切さを学ぶつどい」活動発表会が行われました。ビデオレター紹介や児童による「命のメッセージ」の発表、丹後まみ子さんによる講演会や「命のアサガオ」の種まき体験活動を行い、280名以上の方が参加しました。

豊かな体験活動以外に、佐渡金銀山の世界遺産登録に向けて、パンフレットやDVD等の作成、地区の環境美化運動等にも取り組んでいます。



「命のメッセージ」の発表(5月16日)

「授業の達人」養成講座

指導主事 銅 郁夫

佐渡総合教育センターの「授業の達人」養成講座は2年目を迎えました。今年度は昨年度より1名多い、6名の応募がありました。

応募された先生、教科、研修テーマは次のとおりです。

本間 学 先生（加茂小学校）

- ・研修領域 社会
- ・指導者 本間健人指導主事
- ・テーマ 「問題意識を高め、主体的に学習課題を追求する授業」
児童の問題意識を高め、主体的に学習課題を追求させるには、どのような学習課題を組んだらよいか

竹内智恵子 先生（真野小学校）

- ・研修教科 算数
- ・指導者 原 功治指導主事
- ・テーマ 「教えて考えさせる算数授業」

田中 良樹 先生（真野小学校）

- ・研修教科 算数
- ・指導者 原 功治指導主事
- ・テーマ 「課題設定・課題提示の工夫」
課題設定と提示の仕方を工夫することによって、児童の学習意欲を高めたいと考える

森 敏美 先生（行谷小学校）

- ・研修教科 算数
- ・指導者 原 功治指導主事
- ・テーマ 「思考力～筋道を立てて考える力」
を養う算数的活動を探る



岩崎 直哉 先生（小村小学校）

- ・研修教科 国語
- ・指導者 川上 治男指導主事
- ・テーマ 「読み書き関連指導」
～効果的に書く子どもを目指して～

坂井 美喜 先生（前浜中学校）

- ・研修教科 英語
- ・指導者 市橋良夫羽茂中学校長
- ・テーマ 「読むこと」における指導の改善」
～目的を持った読みのスキルの定着を目指して～

本講座は、「授業を通した研修」であり、「求められる教師」として成長してほしいとの願いが込められた講座です。

3学期には、研修の成果をまとめ、全小中学校の先生方を対象に発表会を行います。

期日 平成21年3月3日（火）「元気館」

報・連・相とはいうけれど

管理主事 児玉 勝巳

先日、「家族に乾杯」というTV番組を見ていて考えさせられたことである。

この番組は、著名人が前触れもなくある地域を訪れ、その住民と交流するもので、その日はSMAPの中居氏が出演していた。中居氏は行く当てもなく、たまたま見付けた小学校に入って行った。学校で最初に出会ったのは教頭先生。これから給食の時間だと言う。

私は、学校は中居氏を大歓迎し、子どもたちと給食を食べながら、楽しく交流する姿を想像していた。

ところが、教頭先生は中居氏を控室に案内し、「これから職員で今後の対応を協議します。」おまけに「教育委員会へも報告しなければなりません。」と待機させたのである。

学校から市教委への報・連・相は確かに大切であるが、校長先生の判断で臨機応変に対応し、事後報告で済むケースもあるだろう。四角四面の対応ばかりだと、子どもも職員も萎縮してしまうのでは、と感じたのである。

一人情あふれる佐渡の教師にお礼をー

先日、新潟県教育委員会に次のような手紙が届きました。心当たりの方は、市教委児玉管理主事までご連絡ください。

「私が群馬大学2年在学当時の出来事です。今から40年ほど前(昭和41年)、私を含め3名で佐渡一周のサイクリングに出ました。両津港で自転車を受取り市中を彷徨っていると小学校？を見付けました。(両津港の近く)

夏休み中だったので、宿直の40才位の男の先生の、『どうしたんだ、中に入れ』の言葉に甘えて、雨宿りをさせていただきました。『この雨じゃどこにも行けないから泊めてやってもいいぞ』と。『ちょっと出てくる』と言って雨の中を出て行かれた。

数十分位して戻ってこられ、干物と味噌汁を振る舞っていただきました。かくして、初日から温かい布団の中でゆっくり眠ることができたのでした。

その後、佐渡をほぼ一周しましたが、行く先々で災害の痕跡を目の当たりにしました。しかし、行く先々での人情味あふれる触れ合いができました。(後略)

雨宿りをさせてくださった先生に正式にお礼を申し上げたく書面でお願いいたしました。ご健在ならば、80才ぐらいでしょうか。